

高層湿原の現況及び 植生保護柵の設置について

平成29年8月2日

林野庁 九州森林管理局

1. 花之江河の現況

平成22年



平成28年



ヤクシカの踏込みにより所々の**ミズゴケ**が剥され、裸地になっている。

2. 小花之江河の現況

平成22年

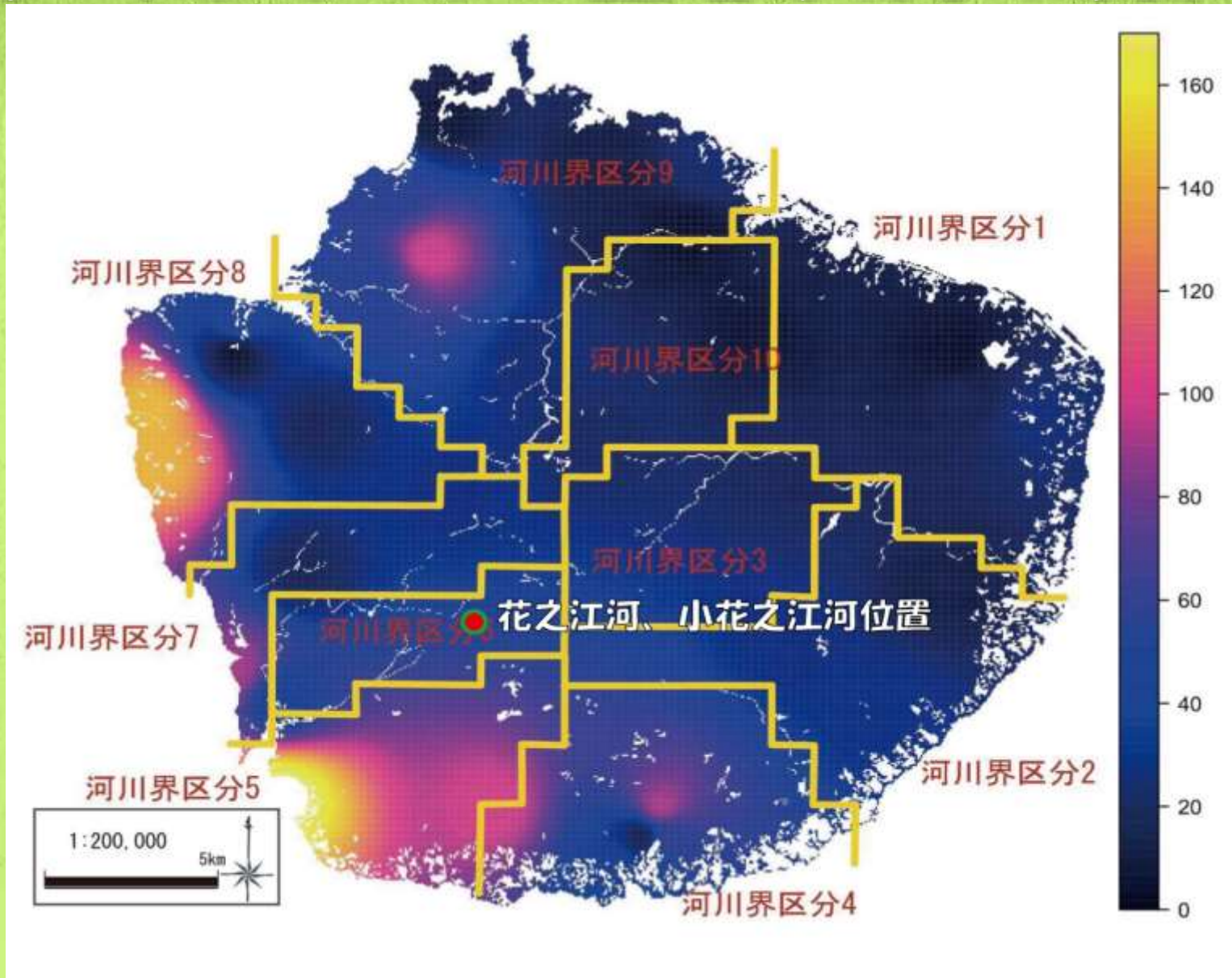


平成28年



コハリスゲやハリコウガイセキショウ、ホシクサ類の草丈はヤクシカの採食で矮小化していた。

3. ヤクシカの生息状況の現況



出典：平成28年度第2回ヤクシカワーキンググループ資料

4. 流域からの土砂流入について

1) 花之江河

平成13～14年に土砂流入防止対策を実施したところ、マサ土の流入量が減少した。その結果、流路の縦侵食（路床侵食）が進行し、湿原全体の水はけが良くなりつつある。

ヤクシマダケなどがミズゴケ域に進入し、やがてはビヤクシンなどの低木域に変化してしまうことが考えられる。

大きな土砂が登山道手前で止まり、その結果、小さな土砂が流入しづらくなっている可能性もある。

4. 流域からの土砂流入について

2) 小花之江河

小花之江河については、平成10年に堆積土砂の掘削排除を、平成13～14年に土砂流入防止対策を実施した。その結果、流域内の登山道からの土砂（マサ土）の流入量が一時的に減少した。

しかし、平成25年頃から再び登山道からの土砂流入が増加してマサ土が堆積し、湿原の乾燥化が危惧される。

土砂流入はシカの影響も考えられる。また、木橋部分で流れが阻害されている可能性もある。

5. ヤクシカによる採食の影響

1) 花之江河

花之江河は、流水に流されやすい**ミズゴケ**の生育域が多い。

ミズゴケ域の植生は、度重なるヤクシカの食害により、年々丈が低くなり、やがては根こそぎ剥ぎ取られ裸地になっていく。

ミズゴケ群落内には、**コケスミレ**、**ヤクシマオトギ**、**ヤクシマニガナ**、**ヒメコナスビ**などの希少種や固有種が数多く生育しているが、多くがヤクシカの採食により矮小化し減少しつつある。

5. ヤクシカによる採食の影響

2) 小花之江河

小花之江河は、流水に流されにくい**コハリスゲ**や**ハリコウガイセキショウ**の生育域が広く存在する。

ミズゴケ群落内に生育する**コケスミレ**や**ヤクシマニガナ**、**ヒメコナスビ**などは、**ミズゴケ**もろとも根こそぎ剥され裸地化しつつある場所も見られる。

コハリスゲや**クロホシクサ**、**ヤクシマホシクサ**（希少種・固有種）などは、一部は矮小化しているものの、多くは度重なるヤクシカの食害により根こそぎ剥ぎ取られ、裸地化しつつある

6. 影響への対策

1) 流入土砂について

花之江河における路床侵食防止としては、例えば現地の石礫を流路の路床に並べ、縦侵食を防ぐと共に流路の横方向の侵食防止を図る。

小花之江河におけるマサ土堆積対策としては、登山道からのマサ土の流入堆積箇所の排土を行う。その際、排土量は高さ数cmと僅かに留める。

これらの対策は、湿原環境を一度に改変させないよう試行的に実施し、モニタリングを行いながら成果と課題を整理して、順応的に進めていく。

6. 影響への対策

2) ヤクシカによる影響の排除

湿原植生を回復させるためのヤクシカ対策として、**植生保護柵**を設置する。

植生保護柵は、管理が比較的簡単で柵の破損リスクの少ない、面積の狭い**パッチディフェンス**とする
($26.4\text{m}^2 \sim 168.7\text{m}^2$)。

6. 影響への対策

2) ヤクシカによる影響の排除

例；花之江河に設置の植生保護柵

(平成23年環境省九州地方環境事務所発注業務で設置)



6. 影響への対策

2) ヤクシカによる影響の排除

水の流れを阻害しないように設置。

希少種のハベマメシジミの生息地を阻害しない。

ミズゴケ生育地への立ち入りと低木の先行伐採を行わない

設置適地は、おおむね陸化していて降水時期にのみ冠水する箇所が望ましい。

設置個所を限定し、その効果と課題の把握に努める。

植生保護柵設置位置（案）

